

【資料1】第1学年 4月6日「中学生になって」の指導実践の概要

1年-1 題材名 「中学生になって」

1 目標

- ア 中学校入学の喜びや希望、抱負などを話し合わせ、中学校生活への不安を和らげ、希望と意欲をもって毎日の生活に臨む心構えと決意をもたせる。
- イ 学級の間関係作りのきっかけとして、互いを知り、認め合い、みんなと協力していこうとする意識を高める。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：◎自分から進んでコミュニケーションをとる。◎級友への理解を深める。
- イ **感情統制能力**：中学校生活や新しい友達に対する不安を取り除く。
- ウ **思考能力**：中学校生活への希望や抱負をもつ。

学年毎の計画室から

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 事前に配付した「自己紹介カード」を用いて自己紹介し合い、級友への理解を深める。
- イ 自己紹介には、**ゲーム形式の活動**を取り入れ、和やかな雰囲気の中で自己開示や他者理解が図られるようにする。
- ウ 新しい生活への不安を取り除き、学級への所属感をもたせて学校生活への意欲を高める。

4 展開

進	主な学習活動と生徒の反応等
5分	1 入学式を終え、中学生になった感想を発表する。 自己紹介をお互いに知り合い、中学校生活への希望と抱負をもとう
展	2 担任の先生の自己紹介を聞く。 ・担任の先生の「自己紹介カード」に基づく自己紹介を聞く 3 生徒同士で自己紹介を行う。 (1) 隣の人に名前を伝え、互いに握手する。 【自己紹介ゲーム1】 (2) 「自己紹介カード」に基づいて、各自が自己紹介をする。 ・次の【自己紹介ゲーム2】のやり方の説明を受けてから自己紹介の活動を行う ・メモはとらずにしっかりと聞く
40分	4 各自の自己紹介を基にして、級友への理解や中学校生活への希望や抱負を深めるためのゲームを行う。 【自己紹介ゲーム2】 ・みんなの特技や趣味 ・中学校生活への希望や抱負
終	5 みんなの自己紹介を聞いての感想や気持ちを発表する。 ・みんなの素晴らしいところ 5 ・みんなの気持ち、自分の気持ち 分 ・自分の学校生活に生かしていきたいこと

主な指導と援助

5～6名に発表してもらい、期待と不安が交錯している状況を浮き彫りにする。
そして、自己紹介をお互いに、級友を知り合い、学校生活への希望や抱負を確かめ合うような活動をするをテーマとして確認する。

担任教師が和やかに自己紹介を行い、自己開示をお互いに、生徒との縦関係関係を築くように配慮する。

【自己紹介ゲーム1】の進め方
・決められた時間内で、男女を問わずできるだけ多くの級友と名前を伝え合い、握手をする。
・教師は計時を行い、あわせて和やかな雰囲気になるように配慮する。

人間関係能力◎と感情統制能力◎に関する工夫
→自己紹介ゲーム1

【自己紹介ゲーム2】の進め方
・教師が、特技や趣味、中学校生活への希望や抱負といった中からテーマを決め、生徒の発表を聞きながらメモをとる。
・全員の話が終わったら、教師が生徒の発表を聞き上げて再確認し、生徒はそれぞれが誰のものだったかを当てる。


人間関係能力◎に関する工夫
→自己紹介ゲーム2を意識させた自己紹介

先生や級友との関わりの中で感じたこと、考えたこと、今後に生かしたいことを振り返らせる。

思考能力◎に関する工夫
→感想や気持ちの発表

▼自己紹介カード

白画像を描く



自己紹介カード

氏名 ()

年 月 日 生まれ

血液型 ()

1. 好きなことば、食べ物、色、スポーツ、遊び、動物など
2. 私をこう呼んでください(ニックネーム)
3. 私の長所・特徴
4. 趣味や特技など
5. ○中学生になっての抱負・希望(頑張りたい教科や活動など)

▼活動の様子

【自己紹介ゲーム1】

T: みなさんに自己紹介をしてもらいます。まず、隣の人同士で、自分の名前と自己紹介カードの中から一つを紹介して握手をしてください。

S: (恥ずかしそうにしながら互いに自己紹介)

T: 次は、今の要領で教室いっぱいを使って自己紹介をします。ルールは、男女交互に時間内でできるだけ多くの人と自己紹介をします。何人の人とできたか覚えておいてください。

S: (わいわい騒ぎながら楽しそうに自己紹介をするが、男女間では恥ずかしがってなかなかできない)



よろしくお願いします。

【自己紹介ゲーム2】

T: クイズタイム! これから、自己紹介の中で誰かが話した事を言います。誰が言った事柄かを当ててください。

- ・ドラえもんグッズ集め
- ・ピアノが趣味
- ・野球が得意
- ・豚が好き
- ・社会を頑張りたい
- ・もの真似が得意 など

S: (張り切って挙手し、回答している。みんな楽しそうな表情。先生の突っ込んだ質問に大いに沸いた)

【感想の発表】

S: ○○さんが、もの真似できるなんてびっくりしました。

S: □□君は、小学校の時、いつも同じ班だったけど、給食の時も話をしなくて、何が好きなのかも分からなかったんだけど、今日始めてそれが分かった。

T: 予習や復習を頑張ろうという人もいたね。そういう思いを出し合ってすてきな学級にしよう。

考察

中学校に入学して初めての学級活動であり、目標に挙げたように中学校生活への適応を図る上で大事な時間である。そこで、自己紹介としてゲーム形式の活動を取り入れ、和やかな雰囲気の中で自己開示や他者理解が図られるようにした。

【自己紹介ゲーム1】では、「男女交互に」という教師の適切な指示があったが、恥ずかしさのため、男女の交流は不活発であった。これを改善するためには、例えば、男女交互に二重の輪を作り、順番に自己紹介をする方法も考えられる。ただし、フリーに活動させることによって人間関係が見えてくる場合が多く、その観察に重きを置くことも考えられる。

生徒の感想に、友達の新たな一面を知ることができたということが挙げられたのは大きな成果だった。

【資料2】第1学年 4月20日「学級目標を決めよう」の指導実践の概要

1年-4 題材名 「学級目標を決めよう」

1 目標

ア 「こんな学級がいい」という共通理解を図らせ、集団の一員としての自覚をもって望ましい学級作りをしていくための「学級目標」を設定させる。

イ 「学級目標」作りをとおして、生徒達の主体性と自主性を培い、充実した学校生活を送る基盤を築かせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

ア **人間関係能力**：明るく楽しい学級となるよう、思いやりと責任をもって活動する。

イ **思考能力**：こんな学級にしたいという願いや考えをもつ。

ウ **問題解決能力**：よりよい学級実現の在り方考え、話し合いで目標を決定する。

エ **意志決定能力**：みんなの願いを踏まえて学級目標を決める。

3 指導上の工夫（留意点）

ア 事前に「こんな学級がいい!!」のカードに各自の思いや願い（場合によっては父母のもの）を書かせ、それを集計した結果を配付しておき、よく読んで話し合いに臨むようにさせる。

イ 学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価が可能なものになるようにさせる。

4 展開

時	主な学習活動と生徒の反応等	主な指導と援助
導入	1 「こんな学級がいい!!」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 みんなの願いを反映させた「学級目標」を作ろう	アンケート集計結果から、学級のみながおおよそどのような願いをもっているかを確認し、みんなの願いを反映させた学級目標を作ることを活動テーマとする。
5分		思考能力 に関する工夫 →「こんな学級がいい!!」のアンケート集計
展開	2 学級目標作り当たった留意点や担任の先生の願い及び活動の進め方についての説明を聞く。 ・具体的で評価が可能なもの ・担任方針あいさつの内容の再確認 ・学級目標作りの活動の進め方	学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価が可能なものになるようにさせる。 入学式後の学級開きでの担任方針あいさつの内容を振り返らせ、担任の願いを確認する。 グループごとに話し合って案を作り、それを全体でまとめていくこと、全体の司会は担任が行うことを確認する。
開	3 学級目標作りの活動を始める。 (1) 数人ずつの任意のグループに分かれ、「こんな学級がいい!!」のアンケート集計を基に、グループとしての学級目標の案を考える。 ・各グループの案とその理由	グループは、座席をみながら数名で適宜編制する。司会と発表者も適宜指定する。 その案を考えた理由についても発表できるように準備させる。
40分	(2) 各グループからの案を基に話し合い、学級目標を決定する。 ・各グループからの案に対する質疑 ・各グループからの案の整理統合や修正 ・学級目標の決定	人間関係能力 や 問題解決能力 に関する工夫 →グループでの話し合い 各グループから出された案に対し、本時の活動テーマや「具体的で評価が可能なもの」という観点からの質疑をとおして案の整理統合や修正を行い、全員で一つの案にしていく。
終末	4 活動を振り返っての感想や決定した学級目標に対する感想を発表する。 ・みんなの意見や願いが込められた	問題解決能力 や 意志決定能力 に関する工夫 →全員での話し合いと決定 学級目標作りの活動の経過と、自分及び級友の言動を振り返っての感想や、決定した学級目標の下での学級や自分のあるべき姿について考えさせ、発表させる。 次の学級組織作りの活動につなげる。
3分	・学級や自分の進むべき道がわかる	思考能力 に関する工夫 →感想や気持ちの発表
分	・学級組織決めも積極的に進行	

5 事後指導

・生徒各自の「こんな学級がいい」のアンケート集計結果や、決定した学級目標を、通信等で紹介する。

・決定された学級目標を教室正面に掲示し、折に触れて学級目標に込められた願いを確認させる。

▼「こんな学級がいい」の事前アンケート結果

- みんな仲のよい学級
- 仲間はずれのない学級
- 活発でいろんなことを分かり合える学級
- どんな人にも優しく一人一人が分かり合える学級
- 明るく楽しい学級で、みんなが仲のよい学級
- 優しく、授業では一人1回は発表できる学級
- いろんなアイデアを出したり、積極的に発言をしよう学級
- 話し合いなどの時にたくさん案を出す学級
- 授業中にみんな1回は発表するような学級
- みんなで話に参加し、みんなで話し合えるような学級
- 自分の思っていることを積極的に発表できる学級
- スムーズに授業が進む学級
- どこかの田舎にあるような平凡々とした学級
- 共に活動する学級
- まとまりのある学級
- 何にでも協力して、みんなで助け合える学級
- 積極的に何かをやるためにがんばる楽しい学級
- 何にでも一生懸命活動し、協力し合う学級
- 元気がよくて、にぎやかな学級
- 明るい学級
- 楽しい学級
- 明るく元気な学級
- みんな仲よく、楽しい学級
- 日々進化していく学級

▼活動の様子

T：みんなの願いをプリントにまとめました。区切ったんですが、何で区切ったと思いますか。

S：生活面とか学習面とかの種類別だと思います。

T：（まとまり毎のキーワード、学級目標作りの留意点、教師の願いの確認。特に**具体的で評価が可能なもの**ということについて、「**明るい**」、「**頑張る**」などの具体的な文言で確認）

T：班毎に話し合う前に、各自で考えてみましょう。

S：（各自、プリントや先生の願いなどを踏まえて考える）

T：班毎に話し合ってください。班長さんが司会、副班長さんが記録してください。



T：各班の意見を発表してください

S：（各班から発表）

T：時間がなくなったのでこの後どうやってまとめたらいいですか。

S：（多数決。話し合いなど）

T：学級執行部が各班からの意見をまとめ、それを基に、みんなで話し合うことにしましょう。

考察

学級目標には生徒一人一人の願いが込められるべきこと、1年間の学校生活の拠り所であるべきことを踏まえ、事前アンケートを実施し、具体的で評価が可能なものになるように考えさせた。

決定までに、個人、班、学級全体というステップを踏み、各自の意見を反映させて話し合っていくこととしたが、学級全体の話し合いは時間不十分に終わった。

この計画案を生かすには、アンケート結果を基にして各自の考えをまとめるまでを家庭で行うなどの工夫が必要なことが分かった。また、具体的で評価が可能なものにこだわるあまり、考えが細かくなり過ぎたり、まとまりにくくなったりしたようであった。スローガンのものと、生活面、学習面、行事事面などの視点を与えて考えさせることも必要であることが分かった。

【資料3】第3学年 8月24日「自分を見つめ直す」の指導実践の概要

3年-1 題材名 「自分を見つめ直す」

1 目標

ア 進路選択の主体である「自分」に対する理解を一層深めさせる。
 イ 自分の能力や適性、興味・関心について検討し、進路選択に生かすことができるようにさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

ア **思考能力**：自己理解の学習を振り返り、自己の成長や変化に気付く。
 イ **問題解決能力** や **意志決定能力**：自己の能力や適性、興味・関心を見つめ直し、それを進路選択に生かす。
 ウ **情報選択能力**：自己理解を深める力を培う。

3 指導上の工夫（留意点）

ア 1・2年生での学習を生かし、総合的に自分をとらえさせ、進路の実現への基盤とさせる。
 イ 生徒一人一人の希望進路を確認しておいて指導する。

4 展開

進	主な学習活動と生徒の反応等	主な指導と援助
入	1 進路選択のための段階を確認し、本時は「自分の特色」について考えることを把握する。 自分についての理解を深め、自分の諸特性を 進路選択に生かしてこう	教師の説明で、進路選択のための6つの段階（①将来の希望職業、②進路を決める目的、③自分の特色、④進路先の状況、⑤進路計画、⑥進路相談）を再確認し、本時の活動テーマを把握させる。 ※進路選択の6つの段階＝0年～12・13で触れておく、できれば教室掲示しておきたい。
展	2 自分を理解するためにどんな学習をしたか、また、自分を理解する方法にはどんなものがあったかを確認する。 ・進路適性検査 ・十人十色 ・自己評価、相互評価 等	1・2年生での進路学習の記録があれば、参考にさせる。客観的に自分を理解する方法として、進路適性検査等があったことを確認する。確認程度とし、意見が出ない時は教師が説明する。
開	3 ワークシート「自分についてのまとめ」にしたがって作業をし、自分の特色をつかむ。 (1) 自分の行動の傾向や性格について記入する。 (2) 自分が考えている将来の仕事とその適性について記入する。	作業のための時間を十分に確保する。机間指導をし、自分の特色や希望職業に当てはまっている点等を書けないうる生徒に助言をする。 情報選択能力 に関する工夫 →自分の特色や進路適性を考える
40	4 今までの自分と比べて、変わったところ（成長したところ）をワークシートに記入し、発表する。 ・身体的にかかわる変化 ・性格や言動にかかわる変化 ・学習にかかわる変化 等	できるだけ多くの人に発表させる。同じようなことが出されたら、挙手で意思表示させる。肯定的に自分を見つめさせる。 思考能力 に関する工夫 →自己の変化（成長）した点
分	5 希望進路（上級学校、職業）実現のために、今後努力が必要なことをワークシートに記入する。	「自分についてのまとめ」と希望進路の特性を対比して今後の努力事項を考えさせる。机間指導をし、書けないうる生徒に助言をする。
終	6 自分について見つめ直した結果から考えて、自分が希望する進路について通していると思われる点や不安な点をワークシートにまとめる。	まとめる時間を十分に確保する。不安な点は、教育相談等とおして、できるだけ早く解決するようにアドバイスする。
7	7 希望進路について通していると思われる点 ・希望進路について通していると思われる点 ・希望進路について不安な点	問題解決能力 及び 意志決定能力 に関する工夫 →自己を見つめ直した上での希望進路の選択

5 事後指導

・自分が希望する進路について通していると思われる点や不安な点を書けなかった生徒には個別に指導する。
 ・ファイリングして保存し、個人相談の資料とする。

▼活動の様子

T：（進路選択のための6つの段階を説明し、本時は「自分の特色」について学習することを確認）
 T：ワークシート1番の「自分についてのまとめ」のところの作業をして、自分を振り返ってください。
 S：（各自ワークシートにしたがって作業）
 T：前までの自分と比べて変わったところ、成長したところをワークシートに記入してください。
 S：（各自作業）
 T：発表してもらいます。
 S：調子がいいときはいいい。
 S：隣の人と話すことが多くなった。
 S：我慢できるようになった。
 T：性格や行動の成長を書いている人が多くいました。自分を好きになるというのは大事なことです。「心のノート」の31頁、「自分をまるごと好きになる」のところを読んでみてください。
 S：（「心のノート」を読む）



（以下省略）

▼ワークシートの記入項目からの抜粋

- I 自分についてのまとめ
- 自分の行動の傾向や性格について次の観点から自己評価し、特色をまとめてみよう。（はい、中間、いいの3段階評価）
 - 都合が悪くても仕事を優先する
 - 自分の考えをはっきり主張する
 - 注意は素直に聞いて改める
 - しっかり指導できる
 - 失敗してもすぐ立ち直る
 - 行事などにすすんで参加する
 - 怒ったり人に当たったりしない
 - 清掃は人が見ていなくてもする
 - 忍耐強い
 - 細かいことまで考え、気を配る
 [まとめ]
 - 自分で考えている将来の仕事について、次の観点（省略）から自己評価し、1番でまとめた自分の特色も考えて、適している点をまとめてみよう。
 - 自分が興味をもっている教科や特技をまとめてみよう。
- II 自分の成長点・努力すべき点
- 1・2年生の時と比べて、成長した点や努力が必要な点について、次の観点からまとめよう。
 - 自分の性格・言動
 - 仕事への興味と適性
 - 学習の状況
 - 身体状況・運動能力
 - 自分を見つめ直したことを総合して、自分の希望する進路について、自分の通していると思う点や現在不安に思う点をまとめてみよう。

考察

中学校3年生の二学期は、進路選択について本格的に考えていく時期である。自分自身を正しく知ることが進路選択の基本であることに立脚し、現時点での自分についてまとめさせて、進路選択に生かしていくように考えた。

ワークシートでの作業をとおして自己理解が深まるように、振り返りの観点を具体的なものにし、自己の能力や適性、興味・関心などを総合的に見つめ、自己を肯定的に捉えることができるように記入事項を工夫した。

夏休みが終わったばかりであったが、授業後の感想からは、進路選択の大事な二学期が始まったことを認識できており、この計画案による指導は効果があったことが分かった。なお、自己を肯定的に見つめさせる一つの手段として、担任教師から「心のノート」の活用が提示されたことは、ガイダンスの機能を充実させる効果的な方法として示唆に富むものであった。